

製品名: MLK3 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13955

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MAP3K11
別名	MAP3K11; MLK3; PTK1; SPRK; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 11; Mixed lineage kinase 3; Src-homology 3 domain-containing proline-rich kinase
遺伝子 ID	4296.0
SwissProt ID	Q16584
免疫原	抗血清はヒト MLK3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 640-689

背景

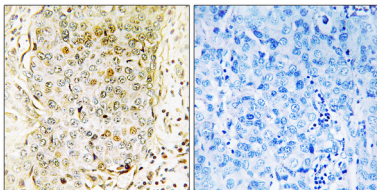
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンキナーゼファミリーのメンバーです。このキナーゼは、SH3ド

メインとロイシンジッパー塩基モチーフを含みます。このキナーゼは MAPK8/JNK キナーゼを優先的に活性化し、JNK シグナル伝達経路の正の調節因子として機能します。このキナーゼは IκB キナーゼ α および β を直接リン酸化して活性化することができ、Rho ファミリー GTPase および CDC42 を介した NF-κB の転写活性に関与することが分かっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子: マグネシウム。、酵素制御: ロイシンジッパードメインを介したホモ二量体形成は、自己リン酸化とそれに続く活性化に必要です。、機能: JUN N 末端経路を活性化します。血清刺激による細胞増殖、および MAPK14 (p38)、MAPK3 (ERK)、MAPK8 (JNK1) のマイトジェンおよびサイトカイン活性化に必須です。マイトジェン刺激による BRAF のリン酸化および活性化に関与しますが、BRAF を直接リン酸化することはありません。細胞周期中の微小管構造形成に影響を及ぼします。、PTM: 活性化ループ内のセリンおよびスレオニン残基の自己リン酸化は、酵素活性化に関与します。Thr-277 が主要な自己リン酸化部位であると考えられます。Ser-555 および Ser-556 のリン酸化は CDC42 によって誘導されます。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼ キナーゼ キナーゼ サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、類似性: 1 つの SH3 ドメインを含みます。、細胞内位置: 位置は細胞周期に依存します。、サブユニット: ホモ二量体。活性化中に二量体化します。、組織特異性: 胎児の肺、肝臓、心臓、腎臓、成人の肺、肝臓、心臓、腎臓、胎盤、骨格筋、脾臓、脳など、さまざまな正常組織および腫瘍組織で発現します。、

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;SAPK_JNK;細胞増殖

画像データ



MLK3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。